

コメントライナー

第6936号

2020年3月18日(水)

パニックを抑えたりー首相のメッセージ

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

◆閉塞感が生む疑心暗鬼

新型コロナウイルス感染症が日本でも国民生活に暗い影を落としているが、愕然としたのは、政府の公式見解より、SNSで発信されるリアルタイムの映像やコメントを多くの国民は信じて動く、という現実が明らかになったことだ。トイレトパーパーがなくなるというデマがSNSで拡散され、早朝から大行列ができた。政府がいくらデマを否定し、適切な行動を呼びかけても騒ぎはなかなか収まらなかった。マスクの品薄は解消されると説明されても誰も納得せず、マスクを取り合う客が店頭でもみ合うことも。

未知のウイルスへの恐怖と先の見えない閉塞感で社会全体がどんどん追い詰められていく中、「疑心暗鬼」という言葉が浮かぶ。日頃信頼していない人の言葉で、非常時に人は動かない。「隠ぺい」「忖度」「改ざん」・・・そんなことが行われているのでは。その不安、不信、不満が人から冷静な判断力を奪ってしまっているのではないか。

◆国民の心を落ち着かせた

世界各地で厳戒態勢が取られる中、心を落ち着かせてくれたスピーチがある。シンガポール首相が2月8日に出した国民へのメッセージだ。かつてSARSで大きな影響を受けた同国は、今回も感染者が早い段階で出始め、いち早く徹底した対策に乗り出した。

「約2週間、私たちは新型コロナウイルスの拡散という状況に直面しています。きょうは私たちはどこにいるのか、そしてこれから先に何があるのかを説明したい」と静かに語りだしたりー・シェンロン首相。「私たちはSARSを克服したことで何をすべきかがわかっており、この問題も解決できることを知っている」と国民を安心させてから、新型コロナとSARSの違い、当初から行っている感染者隔離対策が効果を上げてきたこと、しかし、対策レベルを引き上げる段階に入ったことを述べた上で、こう強調した。

「本当に問われているのは私たちの社会結束力です。恐怖と不安は人間の自然な反応ですが、恐怖はウイルス自体よりも大きな害を及ぼす可能性があります。恐怖に駆られるとオンラインで根拠のないデマを流したり、マスクや食料を買い占めたり、ウイルス流行を特定の人々のせいにししたり、パニックに陥ったり、事態を悪化させたりする恐れがあります」。

日本でその後、まさに現実化したことへの注意をこの段階で喚起し、「このストレスフルな状況を私たちは勇気を奮いおこして一緒に見守っていく必要があります。これが私たちシンガポールです」と締めくくっている。外出への罰金制などかなり強硬な対策が続いているということだが、同国の感染者は3月10日現在で約160人に抑えられているようだ。

◆信頼の絆が原動力

多くの新入社員研修が中止されているが、筆者が新社会人に毎年、研修で強調することは「信頼の大切さ」だ。信頼の絆は毎日の小さな積み重ねで築かれる。「自分から挨拶する、身だしなみを整える、約束を守る、自分の言動に責任を持つ」など当たり前のことを当たり前に実践することが信頼の第一歩だ。「先輩方が築いてきた信頼を軽率な言動で断ち切ってしまうまいや、組織の一員として自覚と責任を持った言動を心掛けよう。それが皆さんの会社の何よりの財産、会社を発展させる原動力となる」———こういふときだからこそ、伝えたい。

(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003